第１編　沿　革　・　地　勢　・　気　象

わたしたちのまちでは

8月平均　20.9℃

1月平均　-2.3℃

１．森町のあゆみ

これまでの森町

古くからアイヌ語でオニウシ（樹木の多くある所）と呼ばれていた森町は、漁業の地として知られ江戸時代初期より、箱館周辺の漁民がニシンなどのさかなを求めて出稼ぎに来た所でした。そして、次第に鷲ノ木・尾白内・蛯谷古丹・本茅部・石倉・森に定住をみるようになり、村落が形成されていきました。

1858 年、幕府は箱館六ヵ場所の中心的な村落を「村」に昇格したので、鷲ノ木もはじめて正式に鷲ノ木村となり、これを機会に支郷であった森・尾白内は鷲ノ木村よりの独立を許可され、同年 12 月森村・尾白内村が成立されてさらに、宿野辺も鷲ノ木村より独立して宿野辺村となりました。

明治を迎え、北海道に開拓使が設置されると、その地方出張所が森村に置かれました。明治 13 年、鷲ノ木・蛯谷・石倉の３村を管轄する鷲ノ木村外 2 ヵ村戸長役場が、翌 14 年、森・尾白内・宿野辺の 3 村を管轄する森外 2 ヶ村戸長役場が開庁し、さらに同 22 年、両戸長役場が合併して森外 5 ヶ村戸長役場となり、6 ヵ村が 1 つの役場をもつに至りました。同 35 年、この 6 ヵ村が合併して森村となり二級町村制を施行しました。次いで同 40 年、一級町村制を施行し、大正 10 年には管内 4 番目の町制が施行されて森町が誕生しました。

昭和に入っても漁業を中心とした各産業の発展がつづき、昭和 14 年字名地番改正によって大字名を廃し 27 字名となりました。太平洋戦争で多くの犠牲をはらって終戦をむかえ、新しい町づくりの取り組みが始まりました。同 31 年、財政再建整備町村の指定を受け、町民が一丸となって発展に努力し、同 36 年、ついに健全財政が確立されました。同年、森町大火によって市街地の大半を焼失しましたが、都市計画整備・駒ケ岳山麓開発事業・濁川地熱開発と着実に躍進を続けました。同 47 年、同 58 年、産業経済振興上の最重要路線であるバイパスも開通し、平成 10 年度からスタートした第 3 次森町総合開発振興計画を礎に、21 世紀の町づくりに向けてまい進し、平成 17 年 4 月砂原町との合併を機に閉町にいたりました。

これまでの砂原町

豊かな幸を運ぶ海、噴火湾に面した砂原町は、1330 年代にはすでに昆布の採集が行われており、1500 年代にはニシンを追って和人が訪れ始め、1532 年に津軽の蟹田村から権四郎が移住し部落が形成されていきました。明治時代に入ると場所請負制度の廃止とともに漁民が増え、定住者の増加に伴い、明治 13 年に砂原町戸長役場が設置されました。また、明治 39 年 4 月、砂原村と掛澗村の 2 村合併により、砂原村で二級町村制を施行し、新たな歩みが始まりました。

昭和時代に入ると、昭和 4 年に駒ケ岳が大噴火を起こし、溶岩、降石灰による被害は軽微でしたが、その後の大雨で押し流された泥石流により家屋、道路などの流出をみました。噴火湾への降石灰は昆布礁を埋め、海水汚濁による漁業への影響などから、基幹産業に大きな痛手が残りました。

それでも人々は、深い郷土愛のもと全国的な救済運動にも支えられ、災害から力強く立ち上がりました。

昭和 45 年、著しい発展とともに、新しい時代を迎え、町制施行とともに役場新庁舎も落成し、その後、小・中学校、公営住宅や水産加工団地の整備などで着々と町づくりが推進されます。

平成に入り、近代化が進む時代の中、ゆとりや潤いのある暮らしに向けた町づくりに取り組み、平成 4 年には町づくり運動推進協議会による「花いっぱい運動」が始まりました。平成 13 年度から第 3 次砂原町総合計画がスタートし平成 17 年 4 月に森町との合併を機に閉町にいたりました。

これからの森町

平成 17 年 4 月 1 日、森町と砂原町が合併して、あたらしい「森町」が誕生しました。
平成 19 年 12 月には第 1 次森町総合開発振興計画を策定し、新しい時代の町づくりにむけて「こころのふれあいを大切にするはつらつとした爽やかなまちをめざして」大きく飛躍しようとしています。

２．　地　　勢

位置　東端東経　140°46’01.6”
　　西端東経　140°25’46.8”
　　南端北緯　 42°10’36.3”
　　北端北緯　 41°57’38.5”

注：世界測地系（国土地理院2万5千分の1地形図より測定）

渡島半島の中央東海岸にそびえる駒ケ岳山頂の一角から、西北に拡がり、東はトドメキ川をもって鹿部町に、南は宿野辺川をへだてて北斗市と七飯町に、南西は渡島山脈によって厚沢部町に、西は茂無部川をはさんで八雲町にそれぞれ境界し、北は空碧く波静かなる内浦湾に臨んでいます。

東西28.9km、南北25.8kmにおよび、北に33.6kmの海岸線を有していて、一般に丘陵性で、渡島山脈により北東に向かって傾斜し、海岸段丘を経て海につきでています。

南東では駒ケ岳山ろくが北西方に穏やかな傾斜をして、所々に台地と小平野をつくり、また北西には濁川盆地があって狭い平野となっています。山岳には駒ケ岳（1,131m）のほかに、渡島山脈の連峰である狗神岳（899m）、三九郎岳（802m）が主なもので、河川には鳥崎川（20.8km）、尾白内川（16.8km）、濁川（10.6km）等があって、北東に流れて内浦湾に注ぐが、南部の宿野辺川（19.1km）は南東に流れて大沼に注いでいます。

３．　森町の気象特性

本町は、年間の寒暖の差は比較的小さく、北海道内で最も温暖な地域に属している。

４月から５月は、日本海から低気圧や高気圧が交互に日本列島を通過し、天気は周期的に変化する。この期間の日照時間は多く、次第に暖かくなる。

６月から７月にかけて、オホーツク海高気圧の勢力が強いときは、冷湿な東風の影響で気温が低く、曇りや霧となる日が続くこともある。

７月から８月は、太平洋高気圧が北海道へ張り出し、夏型の気圧配置となって暑くなる。

しかし、渡島半島が海に囲まれた海洋性気候であることから真夏日となることは少ない。

９月から１０月は、低気圧と高気圧が交互に日本列島を通過し、天気は周期的に変化するが、勢力の強い高気圧が張り出すと晴天が続くこともある。また、秋雨前線と台風の影響で大雨となることもある。

１１月から３月は、冬型の気圧配置になることが多く、気温は下がり吹雪になることもあるが、山岳が季節風を遮るため、比較的晴れる日も多く降雪量は少ない。

４．地目別面積

（単位：km²）

項　目	面　積	構成比率 %	所有内訳	
			町有地	その他
総　数	**368.79**	**100.0**	**58.80**	**309.99**
田	4.49	1.2	－	**4.49**
畑	25.68	7.0	2.58	**23.10**
宅地	5.74	1.6	0.38	**5.36**
山林	118.08	32.0	19.69	**98.39**
原野	56.11	15.2	23.76	**32.35**
牧場	5.03	1.4	4.06	**0.97**
沼地・雑種地 その他	153.66	41.6	8.33	**145.33**

注　：総数は国土地理院発表による。

注　：田以下の地目別面積は、各年の１月１日現在「固定資産の価格等の概要調書」による
　　ため総面積とは一致しないことがある。

資料　：税務課
　　町有地については総務課（平成28年3月31日現在）

５．　気象の概況

年	気温（℃）			降水量（mm）		風　速　（ m/s ） 風 向 （ 16 方 位 ）			積雪（cm）	
月別	平均	最高	最低	１日 最大	総量	最大 風速	風向	平均 風速	最深 積雪	最深月日
平成23年	7.9	31.4	-17.2	66.0	932.5	13.6	南南西	2.7	81]	1月12日
平成24年	7.8	32.6	-15.9	65.5	966.5	13.3	南南西	2.6	103	2月26日
平成25年	8.0	30.2	-17.9	174.0	1419.0	13.2	南南西	2.7	73	2月20日
平成26年	8.0	31.2	-16.3	60.0	889.0	15.8	南西	2.7	80]	3月9日
平成27年	8.8	31.1	-13.9	81.0	1103.5	16.2	南西	2.8	62	2月13日
1月	-2.3	6.1	-13.9	10.5	27.0	9.7	北北西	2.8	36)	1月17日
2月	-1.3	7.1	-9.7	21.0	62.5	11.1	南西	3.1	62)	2月13日
3月	2.5	14.9	-9.7	37.0	113.5	11.0)	南西	3.1)	42)	3月12日
4月	7.0	22.4	-3.8	81.0	147.0	16.2	南西	3.4		
5月	11.8	23.0	2.9	15.0	69.5	12.7	南西	3.1		
6月	15.1	25.8	4.5	50.0	118.0	9.0	東南東	2.5		
7月	19.9	29.0	7.9	15.0	61.0	9.3	南西	2.2		
8月	20.9	31.1	13.2	46.0	52.5	7.2	南西	2.2		
9月	16.9	24.4	7.4	59.5	139.5	9.4	南東	2.4		
10月	9.7	20.4	0.6	18.5	99.5	12.9	北北西	3.3		
11月	5.4	17.9	-4.1	39.0	156.0	9.0	南南西	2.3	14	11月24日
12月	0.5	11.8	-10.1	10.0	57.5	9.6	北	2.7	20)	12月4日

観測所名 ：森地域気象観測所

資料 ：函館地方気象台

注 ：表示例　値）　について。

統計を行う対象資料が許容範囲で欠けていますが、上位の統計を用いる際は一部の例外を除いて正常値（資料が欠けていない）と同等に扱います（準正常値）。

必要な資料数は、要素または現象、統計方法により若干異なりますが、全体数の80％を基準とします。

：表示例　値］　について。

統計を行う対象資料が許容範囲を超えて欠けています（資料不足値）。

値そのものを信用することはできず、通常は上位の統計に用いませんが、極値、合計、度数等の統計ではその値以上（以下）であることが確実である、といった性質を利用して統計に利用できる場合があります。

：最大風速（1日における毎10分の10分間平均風速の中の最大値）

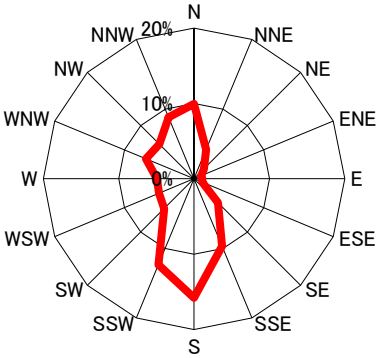
：最深積雪（毎正時の積雪の深さの最大値）

：降水量は、平成20年3月25日から0.5mm単位で観測

：風速は、平成21年9月25日から0.1m/s単位で観測

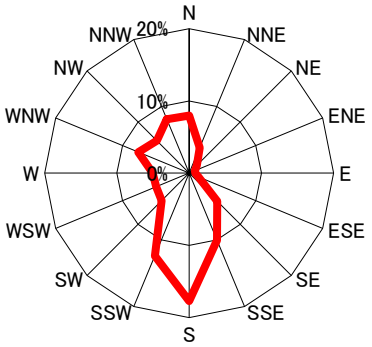
６．　年間風向配置図

（平成22年）



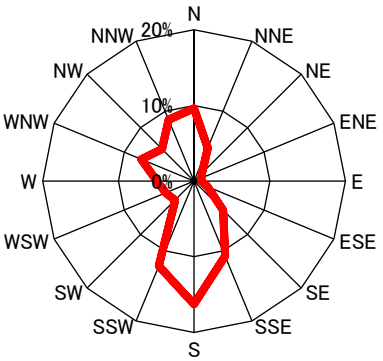
注：静穏0.6％（毎正時の風向）

（平成23年）



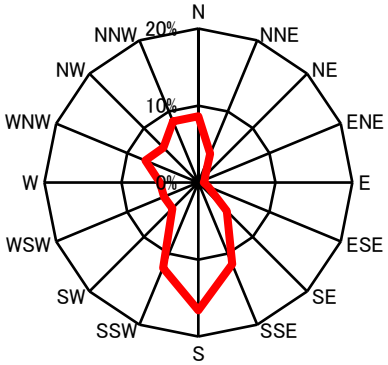
注：静穏0.5％（毎正時の風向）

（平成24年）



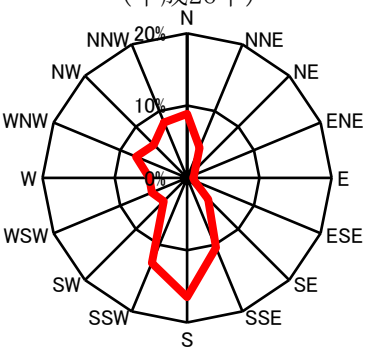
注：静穏0.8％（毎正時の風向）

（平成25年）



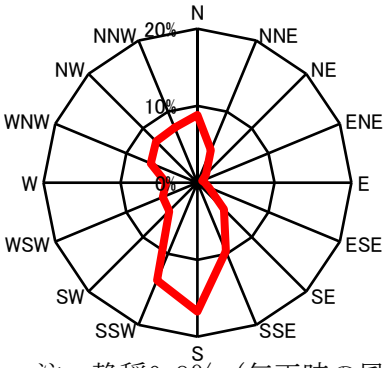
注：静穏0.6％（毎正時の風向）

（平成26年）



注：静穏0.7％（毎正時の風向）

（平成27年）



注：静穏0.9％（毎正時の風向）

注：風速が0.3m/未満の場合を静穏という。

観測所名：森地域気象観測所

資料：函館地方気象台

７．　特殊気象

日最高気温の高い方から　（℃）

順位	数値	出現年月日
1位	32.7	平成19.8.12
2位	32.6	平成24.8.21
3位	32.2	平成22.8.6
4位	32.2	平成19.8.14
5位	32.0	平成18.8.7

日最低気温の低い方から　（℃）

順位	数値	出現年月日
1位	-17.9	平成25.1.10
2位	-17.6	平成22.2.4
3位	-17.2	平成23.1.15
4位	-17.1	平成23.1.13
5位	-17.0	平成22.2.3

日最大風速・風向　（m/s）

順位	数値	出現年月日
1位	20（南南西）	平成16.9.8
2位	18（南西）	平成21.5.18
3位	16.2（南西）	平成27.4.26
4位	16（南西）	平成21.4.10
5位	16（西南西）	平成18.4.17

日降水量　（mm）

順位	数値	出現年月日
1位	174.0	平成25.8.18
2位	131.0	平成19.7.28
3位	103.0	平成25.8.9
4位	102.5	平成22.8.12
5位	100.0	平成22.8.11

月最深積雪　（cm）

順位	数値	出現年月日
1位	103	平成24.2.26
2位	86	平成24.3.1
3位	81	平成23.1.12
4位	80	平成26.3.9
5位	79	平成23.2.20

日最大１時間降水量　（mm）

順位	数値	出現年月日
1位	57.0	平成25.8.18
2位	55.0	平成19.7.28
3位	51.5	平成25.8.9
4位	50.5	平成22.8.11
5位	35.0	平成23.9.17

観測所名　：森地域気象観測所

注　：降水量は、平成20年3月25日から0.5mm単位で観測

：風速は、平成21年9月25日から0.1m/s単位で観測

資料　：函館地方気象台（平成２８年３月３１日現在）

８．　北海道駒ケ岳火山性地震回数

（回）

	総数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成23年	5	1	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	1
24年	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
25年	4	0	0	0	0	0	0	2	1	0	1	0	0
26年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
27年	**4**	**3**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**1**

西山麓地震計による。（西山麓：火口原の西南西約4.1km）

注：平成22年8月2日に「Ａ点」は「西山麓」に名称変更。

資料　：札幌管区気象台